

令和6年度第3回行政評価市民会議

日 時：令和7年3月25日（水）18時00分～19時30分

場 所：鹿角市役所 第5会議室

出席委員：8名中6名

出席職員：行政評価推進本部長 副市長

〔政策企画課〕

課長、室長、主査、主査、主任、主事

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和6年度第3回鹿角市行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

今年度第3回目の会議となりますが、今回の会議で任期が終了となります。最後まで任期を全うしたいと思いますので、皆様よろしくお願いします。

3 案件

（1） 第7次総合計画前期基本計画実施計画（令和7年度）について（資料1及び資料2）

説明：主査

質疑応答

（委員）カーボンニュートラルは市全体で取り組む事案であると思うが、脱炭素行動事業者の認定申請を行いたく、ある会議の場で同席した同課の職員に問い合わせたところ、担当が違うと対応された。民間企業であれば積極的に営業活動するべきところであるので、市全体で推進してほしい。

（事務局）全市的に取り組む事案であるので、職員全体で徹底したい。

（副市長）「担当ではないから分からない」ではなく、所管でなくても担当部署につなぐ等、市としての対応を心掛けるよう職員全体の意識を変えていく。

（委員）カーボンニュートラルに取り組むにあたって、断熱改修等の住宅改修工事への支援を強化していただきたい。断熱改修は本人の幸せにもつながる。カーボンニュートラルはかぶのパワーを中心として進めていると思うが、個人宅が断熱改修を行うことでも寄与する。

（事務局）今年度より安全安心住まいづくり支援事業で脱炭素化促進の補助を拡充し、断熱改修工事、開口部改修工事（複層ガラス窓、二重窓設置等）、ユニットバス化工事等を支援している。物価高騰対策も含めてさらなる拡充を検討していく。

(委員) 鹿角キャンパス構想について、昨年自社で大学生を受け入れた。非常に熱心な学生で、将来的にインターンシップ等を行いたいと思っていたが、報告レポートについて受入側が意図しているものとは違う内容となっていた。今後は受入側が期待する効果を事前に周知していただくほか、学生の誤認によって市内の協力事業者間で認識の齟齬が生まれないよう調整していただきたい。

(事務局) 次年度以降、求める成果が得られるよう、市・事業者・大学で意図や目的を共有しながら進めさせていただく。なお、報告書については、公表を前提としたものではなく、活動報告書として共有を図ったものなので、ご理解をお願いしたい。

(委員) テレワーカーの育成について、今年度の冬期に登録した人数は把握しているか。冬期間は農業が休閑期であり、興味を持っている人がいた。

(事務局) 12月に開催した実践講座には10人が参加した。令和6年度の実績は啓発セミナー77人、集合研修(事務代行、動画編集、SNS活用)延べ135人参加している。委託した講師によると、農家の方から冬期開催を希望する声があったとのことなので、冬期の空いた時間を活用して収益を得られる仕組みを整えるためにも、それを考慮したスケジュールを検討したい。

(委員) 中古住宅改修による外国人材受入の支援について、外国人技能実習生も増えてきているが、3年に1度入れ替わる中で、その都度補助金を活用できるのか。

(事務局) 外国人材受入の補助金は、新たに建物(市内の空き家または中古物件)を取得または賃借し、修繕等を行うことで、長期的に受け入れる意向がある企業を支援している。社宅整備のうち建物の修繕等に要する費用に対して上限100万円、補助率1/2、1申請年度につき1回まで申請ができる。昨年度は1件の利用があった。なお、鹿角市に在住している外国人は、昨年度は138人、令和6年12月末時点では202人であり、急増していると感じている。

(委員) 昨今は様々な国の外国人技能実習生が増えており、自社ではベトナム人が多く、他社ではミャンマー人を受け入れている企業もあると聞く。しかし、同じ住居に住みたくないと言われてしまい、ほとんどの方が3年で帰国するが次々と社宅を整備している現状にある。また、来日し鹿角市民になっても、移住者のような支援がないため、実習生が便利に使える支援があればよいと思っている。特に、来日した際、居住場所は企業が用意するが、最初の給料を支払うまで1ヶ月空いてしまうため、1ヶ月分の食費や物資などといった個人に対する支給が本人たちにとってありがたいのではないか。企業としても支給したいが、国によっては契約書にない支払いや支給は贈与とみなされ、注意を受ける場合があるため、市でそのような支援があればよいと考えている。

(事務局) 事業者にとってどのような支援があれば外国人技能実習生を受け入れやすくなるか、様々な意見を拾いながら事業展開していきたい。

(委員) 契約書等の都合で1ヶ月間給与がない実習生たちはどのように生活しているのか。

(委員) お金を借りて来る方や自費で来る方など様々で、国によって異なる。例えばベトナム人は、渡航費は受入側が負担するが、送出機関に基本教育をしてもらうための費用を、実習生本人が借金により負担する場合と自費で負担する場合があり、残ったお金を1ヶ月の生活費に充てているとのこと。

ある。また、ミャンマーのように、来日してから送出機関に費用を分割で返済する国もある。実習生たちはお金を持ってはくるが、最初の1ヶ月を生活するには足りない状況である。また、連絡等に必要電子機器の購入などで無くなる場合もある。

(事務局) 来年度新たに実施することとした、外国人材受入サポートセンターによる外国人材セミナーでは、受入後のフォローアップについて学習する機会を設けることとしているので、ご都合が合えばぜひ参加していただきたい。

(委員) 今年度は雪の被害が大きく、潰れている屋根なども見かけるため、フォローを検討いただきたい。

(委員) 旧十和田高校跡地の利活用にも関わるが、三条市の三条市立大学のような公立大学があれば良いが、公立大学をつくることは実現可能なのか。もし設置されたら、鹿角高校に進学した後の進学先として、市内外出身者の入学が期待できる。

(事務局) 鹿角市では高校生の進学率が高まっているが、市内に大学がないため転出し、そのまま戻ってこない状況が課題となっている。この課題を克服するため鹿角キャンパス構想を推進しており、市としても大学の必要性を認識している。しかし、校舎を新築するためには100億円規模が必要で、ランニングコストもかかり、一自治体としてはハードルが高い。そのため、公共施設等総合管理計画に基づき、保有総量を減らしながらも必要に応じて有効活用を検討するほか、国の補助金等も活用する必要がある。また、青森や盛岡など東北管内に圏域を広げるほか、他大学と競合しない学部を誘致することが重要である。現在、市でプログラムを誘致している大学が徐々に増えており、1校に限らず複数の大学と連携し、学生のニーズに応えられるような、新しい大学のあり方も考えられる。

(副市長) 新設に費用がかかるのももちろんだが、少子化で定員割れの大学が多くある中で、文部科学省としても相応の学生を獲得できる見込みがないと認可しない方向性にある。市単独で大学をつくるのは非常に厳しいため、現在連携している大学のサテライトキャンパスを誘致するのが現実的と考えている。

(委員) 高齢者等除排雪支援事業について、自治会員に紹介した。65歳以上という条件だが、元気な65歳も多いため、年齢を引き上げて補助率を上げるなど、工夫の余地があるのではないかと。

(事務局) 「65歳以上を一括りに高齢者と位置付けるのは適切ではないのではないか」という意見は、かづの未来会議でも寄せられている。業者に除雪を依頼すると、1回あたり3〜5万円ほどかかると聞いており、1回につき非課税世帯上限2万円、課税世帯上限1万円の補助はあるものの、自己負担分もあることから、元気な方は可能な限り自分で除雪してもらえればと考えている。

(委員) この会議の形態について、何について意見をすればよいのかよく分からない。初回から会議の意図や行政評価について理解するのは難しいと感じた。市民という立場だと総合計画を理解することに終始する。前委員からどういう意見があったか、どういう意見が欲しいか等、説明がないと意見や評価をするのは難しい。初回に説明の時間を長く設けるなどしてほしい。

(事務局) 各ジャンルで活躍されている方々から、普段感じていることや関心があることを様々な立場からご意見を頂戴したいと考えている。この会議の意図が伝わるように初回で丁寧に説明するよう会議の形態を検討する。

(委員) 会議慣れしている方もいればそうでない方もいる。一問一答ではなく会話の中から出てくる意見もあるため、グループワークなど話しやすい環境づくりを考えてほしい。最終的には市民会議に会社や団体の代表はいない方がいいと思っている。しかし委員を引き受けてくれる人はそういった方が多く、本当に困っている市民とは少し違う目線だと思う。様々な市民の参加を募り、活発な意見が出るためにも、敷居を下げてほしいと感じた。今回の委員は子育て世代が多く、高齢者支援に関する意見が薄い年齢層だった。多岐に渡る話をするのであれば、年齢構成も検討する必要があるのではないかと。方針を工夫してほしい。

(事務局) 市民の意見を吸い上げて行政に反映していくことは我々の責務であり、様々な機会を通じてたくさんの方から声を拾っていきたいと考えている。本会議の委員については公募としており、応募がなかった場合には、市役所の各部からそれぞれの分野でご見識のある方を推薦してもらっている。行政評価は市の広範な事業を対象としているほか、専門知識を要する分野もあるため、このような形態で進めさせていただいている。しかし、応募が少ないことも問題であり、市民の声の拾い方を工夫する必要がある。特に若い方の意見の拾い方が課題であるが、今回は若い方からのご意見を頂戴したく、このようなメンバーにさせていただいた。

(委員) 過去の経験者が会長になるなど、工夫があればよい。

(事務局) 第1回の会議のあり方を工夫し、総合計画の説明をした後に行政評価の説明をするよう、次回以降検討させていただく。

(2) その他

→なし

4 副市長（行政評価推進本部長）あいさつ

第11期行政評価市民会議の閉会にあたり、一言お礼を申し上げます。

会長及び委員の皆様には、二年間の長きにわたり行政評価市民会議委員を務めていただきまして、心より感謝申し上げます。

委員の皆様からは、市の仕事の成果を確認し、外部の目で点検していただくための会議として、市の内部評価が適切で分かりやすく説得力があるか、市の進め方が市民の考え方と大きくかけ離れていないかなど、多くのご指摘やご提案、または、ご意見を頂戴したことに対し改めてお礼申し上げます。

来年度は第7次総合計画前期基本計画の総仕上げの年でありまして、後期基本計画策定の重要な年でもあります。本日の会議でも、貴重なご意見・ご提案を頂戴しました。市民会議意見集にございまして、委員の皆様から頂戴したご意見は、積極的に行政運営に反映させるとともに、引き続き検討課題としたものにつきましても、より効率的、効果的に進められるよう、今後の計画策定にも活かしてまいりたいと考えております。

行政評価市民会議は来年度以降も、行政評価の客観性と透明性を図るため開催してまいりたいと考え

ておりますが、見直し、検証に努め、よりよい評価制度の確立に取り組んでまいりたいと考えております。

どうか皆様におかれましては、一旦委員の任期は終了いたしますが、引き続き格別のお力添えを賜わりますようお願い申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。

二年間、ありがとうございました。

5 閉会（19：30 終了）